

日本語話者と日本語学習者はいつモシを使用するのか

市江 愛

◆要旨

モシは統語的に文の成立には関係がないが、仮定表現と一緒に使用され、仮定性を明示するという特徴がある。そのモシがL2習得に影響を及ぼしていることは指摘されてきたが、いつモシが使用されているかは論じられず、教育的応用の糸口がみえていない。そこで、本研究ではいつモシが使用されるのか、それが日本語話者と日本語学習者で異なるのか、それぞれの使用場面を分析した。その結果、提案・依頼で日本語話者がモシをよく使用しているのに対し、日本語学習者はあまり使用していないことが明らかになった。このことから、提案・依頼場面における条件表現とモシの使用を教育に取り入れていくことで、コミュニケーションに役立つ可能性を示した。

◆キーワード

モシ、条件表現、使用場面、日本語話者、日本語学習者

◆ABSTRACT

While *moshi* have no impact on the organising structure of a sentence, they are able to clearly indicate hypotheticals. Although it has been said that *moshi* affect the acquiring of Japanese as a second language, it has not been analysed when *moshi* are used or how to apply them in Second language education. In this paper, I aim to clarify, when *moshi* are being used in a sentence, as well as how this usage differs between native speakers and learners of Japanese. My results show that native speakers often use *moshi* when requesting or suggesting something, while the learners do not use them very often in these situations. I suggest that the results will be useful for facilitating learners' communication by teaching how to use conditionals and *moshi* when requesting or suggesting something.

◆KEY WORDS

moshi, conditionals, usage, native speakers of Japanese, learners of Japanese

Differences in Adverb Usage When are Native Speakers and Learners of Japanese Using *moshi*?

AI ICHIE

1 問題の所在と本研究の目的

日本語のモシは、何かの状況を仮定して述べる場合に用いられる (1)。文の成立には関係がなく、モシがなくても文は成立し、文の大意も変わらない (2)。一方で、(3) のような事実的な条件文にはモシを付けることができない。

- (1) もし100万円があったら、車を買おう。
- (2) 100万円があったら、車を買おう。
- (3) (*もし) 日本では、春になると桜が咲く。

しかしながら、日本語学習者はこのような規範的な使用とは異なった使い方をしており、モシが条件表現のL2習得に何らかの影響を及ぼしている可能性が指摘されている (花井 2018 等)。その一方で、一体いつモシを使用すればよいのか、日本語話者と日本語学習者がいつモシを使用し、両者でどのような違いがあるのかは議論されておらず、教育上の課題はみえてきていない。そこで本研究では、日本語話者と日本語学習者のモシの使用場面を明らかにし、教育的示唆を与えることを目的とする^[注1]。

2 先行研究と研究課題

モシは陳述副詞のため統語的に文の成立には関係がなく、文の大意を左右するような重要な意味も持たない表現である。『日本国語大辞典 第二版』(小学館)によると、モシは、「(仮定表現を伴って) 現実には存在しない事態を、仮に存在したらと想定する気持を表わす」とある。副詞のため単独では使用されず、「仮定的な場面」で、条件表現などの「仮定的な表現と一緒に」、「仮定的な文」で使用されるのである。

また、有田 (2008) ではモシが伴わない条件節として (4-5) を挙げている。(4) では、実際にはシカゴのオヘア空港は悪天候で空港が閉鎖されることがあるため到着できないことも十分あり得るが、発話者がオヘア空港に到着するこ

とを仮定的な事態と捉えていないためモシは出現しない。(5) では、相手が「行く」と言っているのに、わざわざモシというと、まるで疑っているようにとられてしまうため、疑いを表すという意図がない限り、モシが出現しない方がよいとされている。

- (4) 明日の朝の便で、シカゴに発ちます。(もし) オヘア空港に着いたら、電話します。(有田 2008)
- (5) A: 今度の言語学会の夏期セミナーに参加することにしたの。
B: あら、そうなの。(??もし) あなたが行くなら、私も行こうかな。(有田 2008)

このように、モシは仮定性を明示するものであり、仮定的な場面で、仮定表現と一緒に使用される。それにもかかわらず、日本語学習者は仮定ではない場面や、仮定表現ではないものと一緒に使用することが報告されている。たとえば、花井 (2018) では、日本語話者が誰もモシを使用しなかった仮定的条件の場面で、L1 中国語話者は上級・超級になっても高い割合でモシを使用していた。このことから、学習者はト・バ・タラ・ナラの4形式だけで「条件」を表現するのではなく、「モシ+4形式」で表現する可能性を指摘している。さらに、中級から上級にかけて事実的な条件にもモシを過剰使用することや、4形式以外の接続辞、名詞修飾節などにも過剰使用する傾向を明らかにしている。

このように、モシが条件表現のL2習得過程において、一つのキーワードとなっている可能性が指摘されている。一方で、そのような習得に影響を及ぼし得るモシが、いつ、どのような場面で使用されるのか論じている研究は管見の限りない。一体いつモシが使用されているのであろうか。それは、日本語話者と日本語学習者で異なるのであろうか。日本語話者・日本語学習者それぞれのモシの使用場面を分析することで、モシを含めた条件表現をどのように指導すればよいのか、その糸口を見出すことができるだろう。

3 調査1：日本語話者のモシの使用場面

3.1 目的と方法

調査1では、日本語話者が実際の会話の中で、どのようにモシを使用しているのか明らかにするために、名大会話コーパスのデータを用いる。そして、コーパスの会話データからモシが使用されている文について、談話機能ごとに分類しモシの使用頻度を集計する。談話機能は主節の文末形式を参考に分類したが、例示と反事実では文末形式だけでは分類が難しいため前後の文脈も含めて判断した。たとえば(6)の例示では、一重下線部が分析対象となるモシを含んだ条件節、二重下線部が主節の文末形式、波線部が判断材料に用いた前文脈である。なお、例文の末尾には、コーパスのデータ番号、本研究の調査番号、分類結果である談話機能を順に記す。

(6) (うん) えー、何かさー、(うん) 今のさー、今の一、今の保育料がマックスだと思ってた、あたしー、もし、それがうちも本当に2万いくらかかかったら、今、彼、半額になってるからー、Bのおかげでー、今より高くなる可能性がある、そんなこと言ったらー。[data107_R1_例示]

分析対象は順接条件で使用される「もし、もしも、もしさ、もしね」等であり、本研究ではモシと表記する。「もしかしたら、もしかすると」等は、タラヤト等の接続形式が使用されているが、節として働いているのではなく複合語として捉え、対象外とする。これは、前田(2009)では非条件的用法に分類され、また『日本国語大辞典 第二版』にも見出し語として項目があり、それぞれ一語の副詞として成立しているとみなしたからである。

3.2 結果

表1に談話機能別に日本語話者のモシの使用頻度を示す。計108回の内、最も多いのは例示で29回(26.9%)、次いで提案23回(21.3%)、依頼21回(19.4%)で

表1 日本語話者の談話機能別モシの使用数

談話機能	モシの使用数
意見・意思	15
願望	1
疑問	5
提案	23
依頼	21
例示	29
反事実	10
その他	4

あり、これら三つで全体の67.6%を占めていた。最も多く使用されていた例示とは、何か例え話をしている場面であり、仮説条件など典型的な条件文として使用される。例示の例である(7)では、友人の就職活動の話をしている場面で、就職活動が上手くいって採用された場合の話をしている。

(7) F057: 結果はいつわかるんだろうねー。

F093: 知らん。で、もし受かったら、もう2月には行くとかってよ。

[data086_R1_例示]

提案の例である(8)は、遊びに行く日の相談をしている場面で、木曜日の午前中にするか相談をしているが、台風が近づいていることもあり、その場合の代替案として月曜日を提案しているものである。この場合、台風が近づいていざだめになる可能性があるが、台風の状況はあまり先のことだと不確定なため、「もし台風がきてだめそうだったら」というように可能性の低さを強調しながら提案している。一方、(9)は、録音機器のバッテリーがなくなりそうな状況で、替えの電池を持っていなかったため、必要であれば隣のコンビニで購入することができる提案している。(9)の「もしあれだったら」は、提案4回、意見・意思1回の計5回用いられていた。なにかを提案したり、自分の意思を伝えるときに日本語話者が用いるカジュアルな決まり文句であろう。

(8) F141: 木曜日の午前中に晴れてたらー、(行くんだ) こっちで行って、なんか台風近づいてるからー、もしだめそうだったら月曜の、月曜日に行く。[data123_R1_提案]

(9) F152: やばい、電池がないのかなあ。

F030: あー、そうかもしれない。電池の換えなんてない？

F152: このかばんじゃないのにはさあ、B先生からもらった電池の束
というものを持って歩いてたんだけど。(F030: あ、ほんと。) ない
のかも知らない、やだねー。

F030: もしあれだったら、隣に行けばコンビニはあるよ。

F152: そうだね、確かに。 [data123_R1_提案]

依頼の例である(10)では、面接に行った話をしている場面であり、面接の場
場で使用した依頼表現の引用である。(11)ではこの発話データを録音する許
可を取ろうとしている場面であり、会話相手に直接依頼をしているものである。

(10) F105: あのさ、広報の、***はしてますか、あ、したことあります
かって、(うん) 聞かれたのね。(うん) ***それは正直に言う
しかないだろうって、ありません、笑顔で答えたのね。あー、
それかなーと思ってー。で、***で、ご縁***で、(うん)
あ、広報関係で、もし初心者でも読めるようなお勧めの本があ
れば、あの、教えてください*** [data121_R1_依頼]

(11) F130: これ、(ええ) もし気にならなければ (ええ) 録音してもいいで
す? [data113_R1_依頼]

また、その次に多くみられた意見・意思とは(12)のようなものであり、自
分がやりたい仕事について話している場面である。さらに、(13)では以前ホ
ーチミンへ旅行に行った話をしていて、そのときにカンボジアへも行っておけ
ばよかったと話をしている中で、次にカンボジアへ行く場合、それ以外にミャ
ンマーなど別の国にも行きたいと述べている。

(12) F106: でもさー、私の理想としてはー、(うん) もし音楽で食ってける
としたらー、(うん) ミスチルみたいなのが理想。

[data104_R1_意見・意思]

(13) M011: うん。でもカンボジアもし行くとしたらさ、カンボジアだけじ
ゃなくてミャンマーとかあっちの方ね。 [data116_R1_意見・意思]

疑問の投げかけの場面では、(14)のような例であり、友人たちと食事に行
きたいと話をしている場面である。実際にまだ計画段階であり、しかも相手は
多忙で空いている日が限られているという話の流れから、実現するかは不透明
な状況であり、そのため、計画するとしたらと可能性の低さを強調し気遣いな
がらいつが都合よいか尋ねている。

(14) F050: あうんの呼吸があるんじゃないかな。波長が合うっていうこと
はね。ずれないよね。(うん) うーん、もし、あの一、計画する
としたら何曜日が一番都合がいい? [data084_R1_疑問]

以上のように、日本語話者の会話の中で使用されているモシについては、例
示・提案・依頼での使用が多かった。例示は、典型的な仮説条件文などでよく
用いられるため教科書で必ず取り上げられる項目であろう。一方で、提案・依
頼の場面での使用は、日本語教育でどのように扱ってきたのだろうか。ま
ずは、4節の調査2で日本語学習者の使用を確認した上で考察していく。

4 調査2: 日本語学習者のモシの使用場面

4.1 目的と方法

調査1の結果から、日本語話者は例示のほか、提案・依頼でモシを多く用い
ることが分かった。では、日本語学習者はどうだろうか。調査2ではKYコー
パスを用い、調査1と同様に談話機能ごとに分類した上でモシの使用頻度を集
計する。KYコーパスを選んだ理由は、習熟度が統制された学習者の会話で、
ある程度の発話量があるためである。もちろん、OPIという特殊性が発話
内容に影響してしまう可能性はあるが、提案・依頼の場面は、OPIの中のロー
ルプレイでも頻繁に使用されており、調査2の分析に適していると考えた。ま
た、インタビューアの発話に引っ張られてモシが産出されていないか確認した
ところ、直接的なものはなくすべて分析対象に含めた。

4.2 結果

日本語学習者のL1・習熟度別に、談話機能ごとのモシの使用頻度を示す(表2)。なお、記載のない習熟度では、モシの使用はみられなかった。

全体でみると、計60回の内、例示27回(45.0%)、意見・意思13回(21.7%)で、その二つで全体の66.7%を占めていた。(15)が例示、(16)は意見・意思の例である。なお、例示でも意見・意思でも、その使用頻度については学習者のL1による差はあまりみられなかった。

表2 日本語学習者の談話機能別モシの使用数

談話機能	韓国語			中国語		英語				計
	中級	上級	超級	中級	上級	初級	中級	上級	超級	
意見・意思	0	2	1	0	5	0	0	3	2	13
疑問	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
提案	0	0	0	3	1	1	0	1	1	7
依頼	0	0	0	0	4	0	0	0	1	5
例示	1	4	2	6	6	1	1	6	0	27
反事実	0	0	2	1	1	0	0	2	0	6
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

(15) えーわたしはなんか四川料理のソースを持っていますから、〈んー〉一番簡単、〈んー〉もしあのソースをもっ、持っていない人だったら、〈ええ〉えー、どうしようかなー、あの一、塩、とか、〈ええ〉あの一醤油とか、〈ええ〉んーんー料理さけ、あのしょうか [CIH03_R2_例示]

(16) その、うけることは、それは、やっぱり文化と、〈うん〉関係あると思うし、〈うん〉別にあの、まだ、うけたら、その、うけてる人、にはいいと思うし、もし、あの、好きじゃなかったら別に見なくてもいいんじゃない [ES06_R2_意見・意思]

一方、調査1の日本語話者に多くみられた提案・依頼での使用は日本語学習者には多くなく、提案7回(11.7%)、依頼5回(8.3%)であった。(17)の例は、

ロールプレイの中で、電話をして食事に誘うというタスクである。最初の二つは食事の場所を、三つ目は何を食べるかを提案している。(18)もロールプレイの中のもので、友人の家に遊びに行ったとき友人がいなかったため、一人で留守番をしていた友人の5歳の娘に対し、お父さんが早く帰ってきたら渡したメモを見せてほしいと依頼している。提案・依頼での使用はL1韓国語話者にはみられず、L1中国語話者は各4回、L1英語話者は提案3回・依頼1回であった。なお、(17)ではト、バ、タラ、ナラなどの条件形式を用いずに、すなわち条件節を作らずにモシだけで条件文であることを表現している。このような傾向は大関(2008)でも指摘されており、条件形式を用いて節を作る前段階として、モシだけでその意味機能を表現しているのだろう。

(17) S: もしよかたら一、〈ええ〉うーん、三条の、〈ええ〉うー三条の橋知ってるか (T:いや、ちょっとわかりません) わかりませんか 〈ええ〉んー、あーもしわかります一、あー高島屋知っているか (途中省略)
T: あー、でもわたし食べられないものがあるかも知れない、けどどうしましょう
S: もし、もし一食べられます一、あー、にほん、んー、焼き肉いいですか [CIL03_R2_提案]

(18) お父さんが帰ってきましたら、〈んー〉えーと私、あの一、もしお父さんが早かったら、5時頃に、〈ん〉もういっぺん、〈ん〉来ると、〈ん〉メモを、見せてくれませんか、〈うん〉見せてあげてくれませんか [CAH05_R2_依頼]

5 考察

5.1 提案・依頼における定型的なモシの使用

本研究では、文末形式を参考に、談話機能ごとにモシの使用頻度を分析した。その結果、日本語話者では例示26.9%、提案21.3%、依頼19.4%とこれら三つで全体の67.6%を占めていたのに対し、日本語学習者では例示は45.0%と多いも

の、提案と依頼はそれぞれ11.7%、8.3%と少なかった。

日本語話者を分析したデータは日本語話者同士の日常会話を収めたものであるが、日本語学習者を分析したデータはテストと被験者のOPIのデータであり、性質が異なる。そのような性質の違いから、両者の結果を単純に比較することは適切ではないだろう。特に、KYコーパスは、インタビュアーであるテストと被験者という立場上、提案や依頼の発話自体が少ないこともあり得る。しかしながら、OPIでは会話のやりとりからは自然に抽出できない言語機能を引き出す目的として、ロールプレイが行われる。特に、中級や上級ではロールプレイが必須とされており、そこでは友達や先生を誘うものや、クレームを言う、何か依頼をするといったものがよく用いられる。それにもかかわらず、提案や依頼が他の談話機能に比べて少ないという結果は、特筆すべきことであろう。

そこで、日本語学習者の提案や依頼での具体的な使用例をみていきたい。まず、依頼でモンシが使用されていたのは5例で、そのすべてがロールプレイでの発話であった。それは、上級L1中国語話者と超級L1英語話者によるもので、いずれも高い習熟度であった(19-21)。(21)のES06は、(22)の提案でも「もしよろしければ」という同じ表現を使用していた。(21)と(22)は同一のロールプレイにおける一連の発話であり、上司の家に遊びに行って、上司の奥さんに挨拶をするというタスクである。その中で、上司から縁談を勧められ、(21)で断り、(22)で別の人を紹介する際に、「もしよろしければ」を使用していた。

(19) でもねえ、〈うん〉あの、うん、やっぱり、あの2人とも、〈うん〉立派な人間ですから、〈あー〉もし、あの、性格とか話して、少しあの、なんか、性格とか合わなかったら、僕に言って、あの、また、彼氏、紹介してあげるから [CA02_R2_依頼]

(20) 日本人の働きぶり与中国人の働きぶり、多少は違います、と思いますから、あのー、もし、あのー何かありましたらぜひ、とも、ぜひ、あのー、ご指摘、えーしてください、あのー、私は、あのー、自分は、あのー自分のちょう、あの仕事をしているとき、あのー、どこがあのうま、上手にできるか、どこがあの上手にできないか、そのあたりは、あのーあんまりわかりませんので、あのーもしあのー何かありましたら、ぜひ

あのー遠慮しないで、あのー教えてください、喜んで、あのー、なおしますから、あのー、これからよろしく願います [CAH07_R2_依頼]

(21) 私はですね、あのー実は、あの、この話まだしてないと思いますが、〈ええ〉あのー、むこうでまだ彼女がいますので(T:ええ、本当に)はい、ちょっと、それは、ちょっと秘密ですから、〈うん〉もしよろしければ、まも、まも、守っていただけますか、あの、〈うん〉それ、ちょっと、あんまり、あの、会社の人に、特に日本の会社、〈うん〉あの、ちょっとうるさいですから、はっきり言いまして [ES06_R2_依頼]

(22) で、ちょっと、あのー、その、友達、向こうの友達がいるから、〈うん〉あの、その代わりにですねえ、〈うん〉あのー、実は、僕は日本人の友達で、あの、彼もちょっと誰か探してますよ、で、大学も一緒ですし、〈うん〉あの、本当にいい人ですが、あの、年齢もいっしょですし、〈うん、あ、そうかい〉英語も、〈うん〉英語も、〈うん〉あの、スペイン語もできますし、もう、すごい人ですよ、〈あーそうかい {笑い}〉あのー、ま、あのー、それを、あの、もし、ね、〈うん〉よろしければ、その、あの、人もいますけど [ES06_R2_提案]

特に、(20)のような「もし何かありましたら」や、(21)の「もしよろしければ」等は日本語話者が提案や依頼時によく使用する表現である。現に、「もしよろしければ」「もしよかったですら」の表現は調査1の名大会話コーパスでもみられており、提案で4回、依頼で3回であった(23-25)。(23)は日本語教育関係に従事している職場の同僚同士の会話であり、あるイベントについて話している場面で、20代前半の女性F050が40代前半の女性に向けた発話である。(24)は共同研究者同士がホテルのレストラン・バーで待ち合わせをしている場面で、60代後半の男性M017が店員Xに対し、後から来た人のために椅子が欲しいと伝え、その受け答えとして店員Xが発したものである。(23)は年上の同僚に向けたややカジュアルながらも丁寧体を用いる関係で、(24)は客に対する店員の丁寧な依頼の場面である。一方で、(25)は高校生の友人同士の会話であり、「食う」という非常にカジュアルなことばとともに使用されている。

(23) F050 : もしよかったら、あの、ここに(うん)置いておくので(あ、はい)また、見てください。この辺に、(うん)立っておきます。

[data061_R1_依頼]

(24) M017 : あ、いす、いすを1つ。

X : もしよろしければ、席の方、移動していただけますかね。

[data024_R1_依頼]

(25) M034 : 高校のときにさー、(うん)友だちがパン屋でバイトしてたのね。(途中省略)何か知らんけど、パン30個ぐらいもらってきちゃって、<笑い>で、すごく、こう、内気なやつで、(はい)んで、あのー、もしよかったら、これ食うか、何でおまえ持ってきたんだっていうことになるんだけど、別に捨てるっていうからー、あの、じゃ、もらうって言ってー、最初食ってたのね。

[data096_R1_提案]

このように、丁寧な場面からカジュアルな場面まで、提案や依頼のときに「もしよろしければ」「もしよかったら」等の表現が使用されていることが分かる。これらの表現は定型的な決まり文句として使用され、さまざまな場面で聞き手への配慮を示しながら提案・依頼という自分の希望・考えを伝えることができる便利な表現といえるだろう。また、これらの表現に使用されている語句や文法項目は初級で導入される容易なものである。提案・依頼時の表現として初級の段階、もしくは初級から中級に上がる段階の再教育として日本語教育でも取り入れることが効果的ではないか。

5.2 日本語学習者にみられる提案・依頼の配慮表現と日本語教育への示唆

提案や依頼の場面で日本語話者は「もしよろしければ」「もしよかったら」等を使用していたが、日本語学習者のデータであるKYコーパスの中のロールプレイでこれらを使用していたのは(17)のCIL03と(21-22)のES06だけであり、それ以外はすべてモシが付随していなかった。CIL03は一人でモシを10回も使用しており、(26)のように、例示や規範的な使用ではない事実的な習慣・反復にも使用していることから、提案だからモシを使用しているのではないだろう。

(26) こどもたき、たちはー、、、冬ときあまりー、あそびないなあ、<んー>んー、ちゅうご、んーセーアンのところはー、んー、海ないです、<うん>山だけ、<んーんー>もし山いくー寒いときとても寒いですが、だからー、んんー、もし遊ぶ、遊ぶことー、は、カラオケとー、これだけなあ

[CIL03_R2_例示/習慣反復]

一方、モシではなく別の表現を付随させている「もしよろしければ」の使用もみられた。(27)はあまり親しくない隣人に文句を言うというタスクで、「ちょっとお願いがあります」「ちょっとよろしければ」と「ちょっと」を4回も使用しており、失礼にならないように学習者なりに聞き手へ配慮しながら伝えようとする様子が見受けられる。しかしながら、あまり親しくない隣人に文句を言うという場面では、「ちょっと」はカジュアルすぎる語句であり、「ちょっとよろしければ」というのも自然な表現とは言い難い。その代わりに、「もしよろしければ」と使用できれば、より丁寧で相手への配慮が感じられるうまい表現になるのではないだろうか。

(27) S : はい、<ん>なんか、きょうは、なんかありますか、なんかちょっと、うるさいじゃなくて、ちょっと、にぎやかなこのふにきが、聞こえたから

T : あっ、<うん>すみ、あのー実はわたしの一部屋できょうはちょっと友だちが来てるんで、<うん、あーん>あのパーティーしてるんですけれどもー、<あーそうですか>ええ

S : ええー、すみませんけどわたしちょっとお願いがあります(T : ええなんですか)うん、あしたわたし、実はねえわたしあした、重要なー試験がありましたけどー、<ええ>必ず勉強しなきゃならない、ならないことなんです、<ええ>うん、ちょっとよろしけれ、よろしければー、<ええ>んー、ちょっと静かにして、もらいただけませんか {笑い}

[KA03_R2_提案]

また、「もしよろしければ」とは異なり、同じ条件節で表現していても、強

引な印象を与えるものも見受けられた。(28)は、親しい友人を上司に紹介するというタスクである。波線部分が友人を紹介する部分であるが、自分が上司から頼まれたことを断って別の人のお願いしたいと伝えるのであれば、「一応お任せしたら」のように条件節で仮定的な表現が使用されていても、「一応お任せする」という言い方は上から目線で失礼に感じられる。同じ条件節の表現であっても、「もしよろしければ、Tさんはいかがでしょうか」のように提案する方が、失礼な感じを与えず、より丁寧で相手への配慮が感じられる表現になるのではないだろうか。たとえば、前述した(22)のES06では、上司からお見合いを打診された際に、「もしよろしければ」と言いながら、自分の友人はどうかと提案しており、丁寧で嫌な感じを与えずに、うまく断ることができている。5.1で述べたように提案・依頼での便利な表現として「もしよろしければ」等を日本語教育に取り入れることで、話し手の想いとは異なる意図が伝わったり、思いもよらぬ印象を持たれてしまうことを防ぐ一つの策になるのではないか。

(28) S: あっ、失礼します、〈はい〉お忙しいところすいませんが一、あの一、この例一の、件のことなんですけどやっぱりわたしが、ちょっと、んなんかちょっと都合がわる、くて一、〈ええ〉もう、あんまりできない、かもしれません

T: ああ、残念だなせっかく、あの、Sさんだったら、ちょうどいい適任だと思ってたのに

S: あー申し訳ないんですが、〈ええ〉でも、あの一、一応隣の一、T一さんという一人がもうすご英語はすごく、もうペラペラだし一もうほんとに、〈ええ一〉もう、完璧だから一、あの、一応、Tさんに、お任せし、たら、もう絶対大丈夫、じゃないかなあっと思うんですが

[EAH08_R2_提案]

モシは仮定性を明示する表現だが、そのモシを日本語話者は提案・依頼場面によく使用している。それは、より丁寧にみせたい提案・依頼場面において、モシが持つ仮定性を利用し、その提案・依頼の実現を仮定的に示すことでコミ

ュニケーションを円滑に運ばせる、うまい表現なのではないか。

それに対し、現在の日本語教育では、提案や依頼の場面での条件表現、さらにはそこでモシが使用されるということは、あまり注目されてこなかった。たとえば、庵ほか(2001)では「仮定条件では「もし」が使えます」、グループ・ジャマシ編(1998)では「後に条件表現を伴い、ことがらを仮定的に設定する話し手の態度を表す副詞。本当かどうか未定だったり、未知のことがらや、事実と反することがらの前に付いて、それを予想的・想像的に述べる場合に用いる」と記載されているだけで、提案や依頼での使用には言及していない。本研究を通して、モシが提案や依頼の場面で日本語話者に多く使用されていること、それに対し日本語学習者はあまり使用していないことが分かったのは意義深く、日本語教育へ応用していくことが期待される。

一方で、提案や依頼場面でモシを使うとどのような効果があるのかという点は、本研究からは不明である。同じ場面の、同じ言語形式で、モシがある場合とない場合、たとえば「もしよかったら」と「よかったら」でどのように聞き手の印象は異なるのであろうか。そのような日本語話者の語感について、市江(2020)はクラウドソーシングにおける発注文書の分析結果から、発注者が問い合わせを受け付けるときにモシを付けることで丁寧に好印象を与え得ると述べている。このことから分かるように、提案や依頼場面でモシと条件表現を用いることで、より円滑なコミュニケーションにつながる可能性があるだろう。

6 まとめと今後の課題

本研究でモシの使用場面を分析した結果、提案・依頼で日本語話者がモシをよく使用しているのに対し、日本語学習者はあまり使用していないことが明らかになった。モシは今までの日本語教育ではあまり扱われておらず、提案・依頼における条件表現とモシの使用を教育に取り入れていく必要があるだろう。

また、本研究で扱ったモシのように統語的に文の成立には関係がなく、文の大意を左右するような重要な意味も持たない表現に関しては、今まであまり論じられてこなかった。しかしながら、高梨(2020)が指摘するように、「母語話者レベルの正確さを目指す文法」も重要である。本研究は正確さに関する論考ではない

が、より自然でネイティブらしい表現を追求することで、より円滑なコミュニケーションを支え、社会参加につなげ得ると考える。さらに、本研究で扱った、提案・依頼をモシと条件表現で表現するのは、上級以上の学習者だけでなく、初級や中級でも十分に応用可能なものである。このようにより自然な表現の追求を続けることで、日本語教育学の発展に貢献していきたい。〈東京都立大学博士研究員〉

謝辞

本研究は博士論文の一部、第5回関西日本語研究会口頭発表に加筆したものです。ご指導くださいました奥野由紀子先生、関西日本語研究会の先生方・参加者の皆様、査読の先生方に心より感謝申し上げます。

注

[注1] …… 日本語母語話者を「日本語話者」、日本語学習者を「L1〇〇話者」と称する。

参考文献

- 有田節子 (2008) 「あなたがそう言うから／なら別れることにするわー理由も条件も同じコインの裏表」『言語』37(10), pp.76-83.
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 市江愛 (2020) 「条件表現の使用実態とその問題点一どの表現が丁寧な印象を与えるのか？」石黒圭 (編) 『ビジネス文書の応用言語学的研究—クラウドソーシングを用いたビジネス日本語の多角的分析』 pp.169-182. ひつじ書房
- 大関浩美 (2008) 「学習者は形式と意味機能をいかに結びつけていくか—初級学習者の条件表現の習得プロセスに関する事例研究」『第二言語としての日本語の習得研究』11, pp.122-140.
- グループ・ジャマシイ (編) (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 高梨信乃 (2020) 「「母語話者レベルの正確さを目指す文法」の意義」『日本語／日本語教育研究会 第12回大会予稿集』 pp.4-13.
- 花井愛 (2018) 「日本語学習者は「条件」をどのように表現するのか—中国語話者の事実と仮定の表現差に着目して」『日本語／日本語教育研究』9, pp.167-182.
- 前田直子 (2009) 『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版